

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高い志」と「夢」をもち、様々な分野でグローバル社会において活躍する人材を育成する学校
1 探究心を育成し高い学力をつけるカリキュラムを基盤とした学習指導に取り組む学校
2 異文化の多様性の理解などの人権感覚と英語力を基盤とした国際感覚の育成に取り組む学校
3 生徒の自主的かつ協働的活動を促す行事や部活動を通じて、リーダーとしての資質の育成に取り組む学校
4 地域でのボランティア活動や地域の自治体・学校等と連携した探究学習等を通じて、社会に貢献する自律した人材育成に取り組む学校
5 生徒の進路希望が実現できるようキャリア教育を通じてチャレンジ精神の涵養に取り組む学校

2 中期的目標

1 進路を切り拓く学力の育成
(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。
ア 1、2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。
イ ICT委員会を中心に、1人1台端末や電子黒板の活用を全教科で取組み、ICT機器やオンラインを活用した授業や講習を充実させ、わかりやすく効果的な課題の提示を行うことなどにより、知識・技能の定着を図る。
ウ 各教科の授業において、令和6年度から実施の65分授業を充実させ、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ自律的な学習態度を身につけさせる。
エ 課題研究において、大学生・大学院生のTA（ティーチングアシスタント）の活用や豊中市との連携などにより、きめ細やかな指導を行い、ループリック評価で検証し課題研究の質の向上を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
※ 令和7年度に、授業におけるICT機器の活用85%以上維持(R4 80.3% R5 88.3%)、授業において生徒が発表する機会90%以上維持(R3 93.4% R4 90.4% R5 88.8%)、課題研究のループリック評価3.5以上の維持(R3 3.6 R4 3.6 R5 3.7)
(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現
ア 進路指導のみではなく、GLHSの取組みも含め、三年間のすべての学校の教育活動を通じて、生徒が目標を持って大学へ進学し、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ち続け、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、PTAメーリングリストを活用し、保護者への進路情報を定期的に発信するなど、生徒・保護者・学校の進路指導体制の充実を図る。
イ 専門家の講演や本物に触れる機会を三年間の適切な時期に設け、キャリア形成を支援する。
ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたりとともに、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。
エ 授業はもとより、土曜活用（講習、セミナー）、進路指導の充実により、進路第一志望の実現割合を増加させる。
※ スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数100名以上を令和7年度においても目標とする。（R3 103名 R4 105名 R5 108名）
2 グローバルに活躍する人材育成
(1) 「志」の育成
ア 将来のグローバルリーダーの資質として必要な社会貢献の意識を醸成するための道徳教育を、「志 ^{こころざし} 」学として、ボランティア活動等の体験的活動を通じて行い、その成果の実践報告書を作成し、道徳観や学びに向かう力を育成する。
※ 令和7年度まで「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）100%維持。（R3 95.0% R4 100% R5 100%）
イ 三年間の人権教育計画に基づき、人権や命の大切さ、多様性を尊重する教育を推進する。
(2) 英語によるコミュニケーション力の育成
ア 高度な4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、4技能統合型の授業を行い、生徒全体に対してグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。
イ 1、2年生の希望者を対象に英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。
ウ 1年次の課題研究において、大阪大学等の留学生との英語による交流を実施し、英語運用能力を育成する。
※ CEFR-J B1.2レベル相当以上の生徒を、1年生は10名以上、2年生は15名以上、3年生は85名以上を令和7年度においても維持する。（R3（1年生）10名、（2年生）15名（3年生）91名、R4（1年生）15名、（2年生）28名（3年生）92名、R5（1年生）18名、2年生）32名、（3年生）98名）
(3) SSH事業（令和2～6年度）の推進とSGHネットワーク参加校としての文系課題研究の推進
ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出すことができるよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。
イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等を育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。
ウ 国内での科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。
エ 事業の主題となる「健康・福祉・幸福」に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。（SGHネットワーク）
オ 豊中市及び能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH事業（文理学科理科）・SGHネットワーク（文理学科文科課題研究）の充実をめざす。
3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み
(1) GLHSや課題研究、SSH・SGHNの取組みを含め、教職員が協同して取り組める体制を築く。
(2) SC等との連携を通じて、カウンセリングマインドの醸成を図る。
(3) 教職員が自己研鑽に必要な時間や生徒と向き合う時間を確保するため、学校のシステムや業務の見直しを進め、時間外労働の縮減に努め、心身の健康に配慮し、働きがいを感じる職場環境をつくるため、働き方改革を推進する。

府立豊中高等学校

※ 授業アンケートにおける総合平均は令和7年度においても3.3以上をめざす。(R3 3.33 R4 3.33 R5 3.34)
※ 超過勤務時間が年間800時間を超える職員数を令和7年度において0をめざす。(R3 1名 R4 1名 R5 7名)
4 スクールミッションを実現するスクールポリシーに基づく教育活動を充実させ、魅力ある学校づくりを推進する。
(1) 地域や小中学生にとって豊中高校がさらに身近な存在となり、公立学校として府民からの信頼が得られるよう広報活動を充実させる。
ア 効果的な広報活動を工夫する。
(2) 入りたい学校、入ってよかった学校であり続けるため、学校評価から得られる課題を教員全体で共有し改善するしくみを構築する。
ア 教職員が活発に意見を交換し、課題解決に向けて協同して動けるよう学校力を育て、学校経営への参画意識を高める。
※ 学校教育自己診断・生徒「学校に行くのが楽しい」の項目で令和7年度において90%以上の肯定的回答をめざす。(R3 85.4%、R4 87.9% R5 89.0%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】生徒の「授業内容は自分の学習や発達に役立っている」は94%〔93%〕、保護者は「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」72%〔78%〕、教職員は「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」は89%〔87%〕であった。生徒の「質問に丁寧に教えてもらえる」97%〔96%〕「学習意欲が向上する講演・行事がある」80%〔75%〕も上昇している。今年度は校内での授業見学期間を2回設けたほか、授業力向上のための教員研修も実施した。今後も生徒の学力向上及び生徒・保護者の満足につながる取組みを行って参りたい。 【進路指導】生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」97%〔95%〕、保護者の「進路について適切な指導を行っている」86%〔87%〕、教職員の「生徒一人ひとりの進路選択にきめ細かい指導を行っている」は92%〔86%〕と高い水準であった。次年度も、さらなる情報提供・連携に努め、生徒・保護者の進路希望を叶えるよう努めていく。 【生徒指導】保護者の「生徒指導の方針に共感できる」は85%〔85%〕、生徒の「先生の指導には納得できる」は86%〔86%〕、教職員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は89%〔84%〕であった。いじめへの対応の肯定的評価は生徒96%〔95%〕保護者87%〔88%〕教職員93%〔94%〕も依然として高い。次年度以降も引き続き生徒の声を受け止め、主体性を育てる生徒指導を行っていく。 【学校運営】上記のほか、GLHSとして力を入れている課題研究に関しては、生徒は「授業で考えをまとめたり発表する機会がある」94%〔89%〕「課題研究・フィールドワーク・研修旅行は学力育成に役立っている」87%〔78%〕、教職員は「課題研究は生徒の意欲向上に寄与」理科82%〔77%〕文科83%〔79%〕という結果であった。また、本校の学校行事に関しては、生徒は「文化祭・体育大会・修学旅行等の学校行事は楽しく工夫されている」97%〔95%〕「ホームルーム活動や行事にクラス全体で取り組んでいる」97%〔95%〕、保護者は「子どもは学校行事に積極的」93%〔95%〕、教職員は「学校行事が生徒にとって魅力あるよう工夫・改善している」93%〔90%〕と、非常に肯定率が高いことも特徴である。生徒の「豊中高校に入学してよかった」は92%〔92%〕、この肯定率が100%に近づくよう、今後も本校の特長的な活動を大切にし、学校の魅力を発信していきたい。	【第1回 6月24日】 ➤ R5年度学校評価 - 進学実績が伸びているのは素晴らしいがそれとともに、グローバルに活躍する骨太のリーダーシップが育成されているのかの検証が必要である。 - R5年度に目標を少し下回っていた課題研究やSSHの取組みについて、全校的に共通理解や協力を進めていくことが重要。 ➤ スクールポリシー - 学校がめざすものがイメージされるよう可視化されている。カリキュラムに取り入れたり、評価に反映されることが大切。 【第2回 10月30日】 ➤ 志学 - 志学を通して気づいた社会課題を探究活動に繋げてはどうか。能勢分校とも互いを補完し合うような連携を検討するとよい。 ➤ R7年度教科書 - 今後も選定には慎重かつ十分に議論を重ね、学校としての関わりを丁寧に決定してほしい。 ➤ 学校経営計画 - 進捗としては、全体として順調であることが分かった。 【第3回 2月25日開催】 ➤ 学校教育自己診断結果 - 全体的に保護者・生徒・教職員とも高い肯定率となっており望ましい。 - 学年によって肯定率に差異があることについて分析が必要。 ➤ R6年度学校経営計画自己評価案 - 自己診断結果や実績に基づき、適切に自己評価されている。 ➤ R7年度学校経営計画案 - スクールミッション等に基づき全面改定されたが、よく整理されている。 - 地域や能勢分校と連携した取組みに力を入れてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1進路を切り拓く学力の育成	(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。	(1) ア 1、2年生全員を対象に、学習方法についての討論や模擬試験の分析、大学での学びについての講演会(阪大講演会)などの学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を生徒に身につけさせる。また、学習と部活動の両立や学習方法について生徒同士で話し合う機会を持つ。 イ ICT委員会を中心に、1人1台端末の活用を全教科で取組み、ICT機器やオンラインを活用した授業や講習を充実させ、わかりやすく効果的な課題の提示を行うなどにより、知識・技能の定着を図る。 ウ 授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させる。 エ 生徒の課題研究の充実を図るため、大学生や院生をTA(ティーチングアシスタント)の活用や豊中市との連携などを継続し、ルーブリ	(1) ア 学習サポートプログラムにおける生徒の満足度90%以上維持〔95.0%〕 イ 学校教育自己診断(生徒)「ICT機器を効果的に活用している」80%以上維持〔88.3%〕 ウ 学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」90%以上〔88.8%〕 エ SSH評価3.5以上、文科課題研究評価3.5以上〔SSH3.7、SGH3.6〕	ア 予定していた取組みについては全て実施(一部予定)した。生徒の満足度アンケートは全員が「満足」という回答。100% (◎) イ スライド・資料・動画の提示や小テスト等の実施・生徒の課題作成など授業中の活用が進んでいるほか、課題の配信・提出なども経常的に実施95% (◎) ウ 94% (◎) エ 指導方法研修は実施済み。ルーブリック評価についてはSSH3.2、文科3.7 (○)

府立豊中高等学校

	(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現	ック評価で検証する。また、教職員に対する指導方法の研修も行う。 (2) ア 三年間を見通した計画をもとに、生徒が目標を持って大学へ進学し、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ち続け、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、PTA メーリングリストを活用し、保護者への進路情報を定期的に発信するなど、生徒・保護者・学校の進路指導体制の充実を図る。 イ 専門家の講演や本物に触れる機会を三年間の適切な時期に儲け、キャリア形成を支援する。 ウ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪公立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。 エ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。	(2) ア・京大・阪大・神大の志願者 200 名以上[205 名] ・学校教育自己診断(保護者)「進路に関する連携の肯定的回答」80%以上維持[86.5%] イ 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上維持[95.0%] ウ 参加者 150 名以上[152 名] エ スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数 100 名以上維持[108 名(現・浪合わせて)]	ア・年度当初の志願者数は 232 名 (◎) ・86% (○) イ 1 年次から年間を通して進路講演会や大学見学、学識者の講演会などを実施、2 年次も進路講演会を実施。生徒自己診断は 97% (◎) ウ 阪大ツアー、京大キャンパスガイド、京大講演会、京大見学会(研究室訪問)、関学セミナーなど、208 名 (◎) エ 合格者数 (111 名) (○)
2 グ ロ ー バ ル に 活 躍 す る 人 材 育 成	(1) 「志」の育成 (2) 英語によるコミュニケーション力の育成 (3) SSH 事業・SGH ネットワーク参加校としての事業の推進	(1) ア 地元豊中市や能勢町と連携し、公民館・小中学校・高齢者施設等の取組みや活動に、主として2年生が参加し、体験的活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。 イ 三年間の人権教育計画に基づき、人権や命の大切さ、多様性を尊重する教育を推進する。特に生徒が SNS への対応を考える場を設ける。 (2) ア 4 技能統合型の英語の授業を行い、ハイレベルの英語コミュニケーション力を育成する。 (3) ア 各種コンテストに積極的に参加し、全国レベルのコンテストでの入賞をめざすなど、高い志を維持させる。 イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等を育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。(SSH 事業) ウ 国内外での研修や小・中学生向け実験教室を実施し、科学的な見方、考え方、表現力等を育む。(SSH 事業) エ 医療・福祉・幸福に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。(文科課題研究) オ 豊中市や能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH 事業・文科課題研究の充実をめざす。	(1) ア 生徒アンケートにおける課題研究に関する活動に肯定的な回答 90%以上[88.8%] イ 学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」で肯定的回答 80%以上維持[83.3%] (2) ア CEFR B1 レベル相当以上 1 年生 10 名以上・2 年生 15 名以上・3 年生 85 名以上[1 年生 18 名、2 年生 32 名、3 年生 98 名] (3) ア 全国レベルのコンテスト入賞 〔「JICA 国際協力作文コンクール」 特別学校賞+佳作 1 件 「日本情報オリンピック」 敢闘賞、「日本原子力文化財団第 6 回高校生研究活動支援授業全国大会」 審査員特別賞〕 イ SSH アンケート「科学に興味関心をもった生徒」90%以上[91%] ウ 延べ研修参加生徒 350 名以上[425 名] エ 文科課題研究アンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」85%以上[86%] オ 豊中市・能勢分校との連携回数 30 回以上[33 回]	ア 課題研究振り返りアンケートは 86.5 % (△) (文科 91.2%、理科 83.3%) イ 87% (◎) ア CEFR-J B1.2 レベル相当以上は、1 年生 19 名、2 年生 40 名、3 年生 110 名 (◎) ア 「JICA 国際協力作文コンクール」特別学校賞+国際協力特別賞、Q-1 グランプリ U-18 が未来を変える研究発表 SHOW2024 年大会特別探究賞、日本原子力文化財団第 7 回高校生研究活動支援事業全国大会優秀賞等 (○) イ 95% (○) ウ 410 名 (○) エ 85.3% (○) オ 計 23 回 (23 種類) (△)

府立豊中高等学校

3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み	(1) 新学習指導要領に対応できる授業力・評価力の向上	(1) 新学習指導要領に基づく指導法や 65 分授業について、校内研修や授業公開等を実施し、授業力向上に努める。	(1) 授業アンケート評価 3.2 以上 [3.3] 校内研修・授業公開等の機会 5 回以上 [6 回]	・授業アンケート 3.4 (○) ・校内研修・授業公開の機会 9 回 (◎) ・教員生徒ともに 65 分授業肯定的回答 75%以上 ・生徒自己診断「相談できる」は 74% (○) 教育相談研修は参加率 90%。 ・75% (◎)
	(2) SC 等との連携を通じたカウンセリングマインドの醸成 (3) 心身の健康に配慮し、働きがいを感じる職場環境をつくるため、働き方改革を推進する。	(2) スクールカウンセラー等外部人材の活用、医療機関から得た情報を基に生徒指導・教育相談等の実践的スキルの向上を図る。 (3) 引き続き業務の見直しを進め、時間外労働の縮減に努め、心にゆとりを持って働ける環境を作り、同僚性を育む。	(2) 学校教育自己診断（生徒）「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」で肯定的回答 70%前後維持[70.4%] (3) 学校教育自己診断（教員）「教職員は積極的に意見を発信し、学校運営に参画している」で肯定的回答 60%台後半 [67.7%]	
学 4 校 スクールポリシーの策定と更なる基 づ ポリシーの策定と更なる基 く づくりに基づく る 魅力ある学校	(1) 魅力ある学校づくり	(1) ア 学校の Web ページ、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド方式の広報活動の確立	(1) ア 2 回の学校説明会の内容を充実させる。	ア 10 月学校説明会は例年通り実施。9 月の学校説明会はオンラインに加え、学校説明・校舎見学会も同時開催し拡充。文化祭は個別質問ブースを新設 (◎)
	(2) 課題の共有とその改善に組織的に取り組む	(2) ア スクールポリシーの策定とその実践について、活発な議論を行い、魅力ある学校づくりに全校体制で取り組む	(2) ア 学校教育自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ内容となっている」で肯定的回答 70%台維持 [72.6%]	ア 79% (◎)